国語科学習指導案

研修グループＣ

呉市立昭和中学校　柾木　暢也

尾道市立向東中学校　大胡　寛子

世羅町立世羅中学校　岡本　侑子

庄原市立庄原中学校　福田　真美

１　日　　　時　令和４年11月２日（水）第２校時

２　学年・学級　第３学年４組（男子17名　女子16名　計33名）

３　単　元　名　わたしの考える旅とは？～おくのほそ道より～

４　単元について

1. 単元観

　　　本単元は，中学校学習指導要領（平成29年告示）国語第３学年の〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃ読むこと（１）エの指導事項「文章を読んで考えを広げたり深めたりして，人間，社会，自然などについて，自分の意見をもつこと。」を受けて設定している。

　　　「文章を読んで考えを広げたり深めたりして，人間，社会，自然などについて，自分の意見をもつ」力を養うためには，様々な文章から作者が何を考え，どのようなことが伝えたいのかを正確に読み取り，自分の考えをもつ必要がある。さらにその考えを他者や他の文章と比較することで，自分の考えを深化させることが必要となる。

「おくのほそ道」は江戸時代に松尾芭蕉によって書かれた紀行文である。「月日は百代の過客にして」から始まる序章には，芭蕉の生き方や旅への思いが凝縮されており，旅の中で生きていきたい，旅の中で死んでもよい，歌枕や名所旧跡を巡りたい等の芭蕉の思いを一文一文の中から読み取ることができる。現代の私たちには，旅の中で死んでもよいという思いや自分の家を売ってまで旅に出たいという思いは到底理解しがたいものの，この芭蕉の旅への思いが全く分からないわけではない。観光地の情報に触れた際には，行ってみたいという思いに駆られることもあり，そういった意味では，現代を生きる私たちにも共感する部分があるといえる。また，旅をテーマにした現代の書籍等の中にも，「旅」について考える文章や「おくのほそ道」の序文に書かれているような「思い」が読み取れる文章が見られる。

そこで，「おくのほそ道」の序文と様々な「旅」に関する書籍等から「旅」に関する「思い」や「考え」を読み取った上で，比較・検討し，「旅とは何か」についての考えを広げたり深めたりすることを通して，自分の意見をもつ力を育成できると考えた。併せて，読書を通じて自らを振り返り，読書の効用についても考えるきっかけづくりとしたい。

1. 生徒観

　　　令和４年度「全国学力・学習状況調査」において，本校では，問題番号２三「必要な情報を引用し，意見文の下書きに文章を書き加える」における正答率が，46.3％であった。２つの条件は満たしているものの，３つの条件を満たさず回答している生徒が48.8％，無解答率が2.4％という結果から，情報量が多いと条件を把握できずに解答している生徒が多いのではないかと考える。また，どこに着目して何をどのように表現したらよいのかわからない生徒もいるということが，無解答率より読み取ることができる。

このように，様々な種類の資料をもとに，どこに着目して何を書けばよいのか，どのように考えを表現したらよいのかを考えて表現することが課題である。

また同調査の「生徒質問紙」において，「新聞を読んでいますか」「１日当たりどれくらいの時間読書をしますか」の調査結果は次のとおりとなっている。

　〇「新聞を読んでいますか」

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ほぼ毎日読む | 週に１～３回読む | 月に１～３回読む | ほとんど，全く読まない |
| 3.3％ | 8.1％ | 13.0％ | 75.6％ |

　　〇「１日当たりどれくらいの時間読書をしますか」

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ２時間以上 | １～２時間 | 30分～１時間 | 10分～30分 | 10分より少ない | 全くしない |
| 9.8％ | 4.9％ | 16.3％ | 17.9％ | 11.4％ | 39.0％ |

　　　この結果より普段から新聞を読まない生徒が75％以上いることが分かる。普段から新聞を読まないのは，ニュースはテレビでの方が分かりやすい，読みにくい，文字が小さくて読む気にならない，新聞を取っていないといった理由である。また，読書も全くしない生徒が約４割いるということも分かる。読書は，夢中になって読むことができる，新しい世界に入れる，想像しながら読むことができて楽しい，などといった読むことが楽しいという意見も多い反面，マンガは読むが文章が長くて読みづらい，時間がない，文字が多いので読みたくない，といった意見が多数ある。

読書に対する苦手意識が強いと，読書によって沢山の文章に触れる機会も少なくなる。そこに課題があると考える。

1. 指導観

　　　指導に当たっては，前述した課題を踏まえ，様々な文章を読み，交流を通して思考を広げたり深めたりするために，次の３点を工夫する。

まず，芭蕉の時代の「旅」と現代の「旅」を比較する活動を入れることで，具体的なイメージを生徒にもたせるということである。旅の準備や旅への思い等を項目に分けてわかりやすくまとめさせることで，具体化を図りたい。芭蕉の旅については，家を売ることや死を覚悟するといった理解しがたいことだけではなく，衝動的に旅に出る思いや目的をもって旅に出るということ等，私たちに共通する考えもあるというところを，比較の中でしっかり押さえていく。

次に，選択した本から「旅」への思いを考えさせる学習活動では，芭蕉と現代の文章の「旅」への思いと比較しやすい本を選択させるため，本の種類を様々準備しておく。小説，随筆，漫画などから幅広く選書をし，生徒が興味をもって本を選び，その本を読んで考えを広げることで，読書の面白さや読書の必要性を感じ，読書の意義や効用について生徒自身が少しでも感じることができるようにしていきたい。

最後に，考えを交流したり書いた文章を読み合ったりする学習活動においては，自分の意見の根拠をしっかりともち，他者の意見を聞いて自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにしたい。そのために，ワークシートを工夫し，聞き取るときのポイントを明示する。

５　単元の目標

　　〇自分の生き方や社会の関わり方を支える読書の意義と効用について，理解すること 　　　ができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〔知識及び技能〕（３）オ

　　〇文章を読んで考えを広げたり深めたりして，人間，社会，自然などについて思いを巡らせ，自分の考えをもつことができる。　　　　　　　〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃ（１）エ

　　〇言葉がもつ価値を認識するとともに，読書を通して自己を向上させ，我が国の言語文化に関わり，思いや考えを伝え合おうとする。　 「学びに向かう力，人間性等」

６　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について，理解している。 | 「読むこと」において，文章を読んで考えを広げたり深めたりして，人間，社会，自然などについて思いを巡らせ，自分の考えをもっている。 | 粘り強く複数の文章を読み，考えを広げたり深めたりして，学習課題に沿って自分の考えをもち，考えたことを表現しようとしている。 |

＜評価の具体及び手立て＞

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 評価規準【「おおむね満足できる」状況（Ｂ）】 | 「努力を要する」状況（Ｃ）と判断した生徒への指導の手立て |
| 思考・判断・表現 | ○以下の４つの条件を踏まえて書いているもの①自分の考える「旅」の定義が書かれている。②「おくのほそ道」から捉えた芭蕉の「旅」に対する考えが書かれている。③並行読書で読んだ本からの「旅」に対する考えが書かれている。④②と③を比較・分析し，自分の体験等を踏まえて①を書いている。【おおむね満足できる（Ｂ）と判断できる生徒の解答例】２つの作品を通して考えられる「旅」とは，「この世の中にあると言われているものを，自分自身の目で見て感じることで実在のものにする作業」だと考える。　「おくのほそ道」には，「白河の関越えむ」「松島の月まづ心にかかりて」という表現がある。この表現から，芭蕉が「東北に行きたい」「あの有名な『松島の月』がどれほど美しいのか，この目で実際に見てみたい」という強い思いが感じられる。　また，「世界中で迷子になって」には，「旅をしたいと思うとき，いつも，本当にそこに世界があるかどうか，知りたいだけなのである」という表現がある。この作品の筆者である角田光代さんは，小さい頃から，自分が生きている世界とそれ以外の世界の違いが自覚できなかった。そんな筆者にとって，小説や映画ででてくる世界中のいろんな場所へ自分で実際に出向き，自分の目で見ることで，その場所が本当に存在していることを知ることが旅であったのだ。　私の旅に対する考え方も，芭蕉や角田さんの考えと似ていると思う。テレビや雑誌などで世界のさまざまな風景を見たときに私が感じるのは，その景色がどれほど美しいものであったとしても，「本物の美しさには敵わないのではないか」という思いだ。そしてそういう思いがある限り，その場所に実際に行かないことには，自分の気持ちが満たされることはない。　このような考えに対して，Ａ君は「旅とは覚悟をもってするものだ」と言っていた。確かに旅に出ること自体が「普段自分が生活している世界から出ていくこと」を意味すると考えると，程度の違いはあるが，覚悟をもって行うものなのかもしれない。私も，実際に自分の目でその景色を見たいとは思っても，すぐに旅に出るわけではない。普段生活している世界から出ていくのには強い思いが必要だからだ。　このことから，旅とは「覚悟をもって行ったときに初めて，知らなかった世界を実在のものにすることができるもの」だと考えられるようになった。 | ●おくのほそ道で読み取れる旅と並行読書で捉える旅を比較して，共通点を見つけておく。●芭蕉の考える旅，本から考える旅，自分が考える旅をワークシートにそれぞれまとめさせていく。●自分にとっての旅とは，というところは，自分の実際の経験（見聞を含む）が書けるようにワークシートを工夫しておく。 |

７　指導と評価の計画（全12時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 次 | 時 | 学習内容 | 評価 | 評価規準（評価方法） |
| 知 | 思 | 主 |
| 一 | １ | 「旅とは何か」を考え，自分の「旅とは何か」という定義づけを行う。 |  |  |  |  |
| 二 | ２３ | 現在の「旅」と芭蕉が考える「旅」とを比較しながら，芭蕉の旅への思いを捉えている。 |  | (〇) |  | 芭蕉が考えている「旅」について，文章を読んで考えを広げたり深めたりして，自分の考えをもっている。（ワークシート） |
| ４ | 本を選書し，旅について芭蕉との考えの比較を行い，選書した本の「旅」とはどういうものかを文章に書く。 |  | (〇) |  | ・本を選書して，作者や筆者の旅について思いを広げたり深めたりして自分の考えを確実にしている。（観察・ワークシート）・学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。（ノート・観察）・自分の生き方や社会とのかかわり方を支える読書の意義と効用について，理解している。（振り返り） |
| ５ | 自分が考える「旅」と芭蕉が考える「旅」とを比較し，分析して文章を書く。 |  | (〇) |  |
| ６ | 他者が考える「旅」と芭蕉，選書した本から考えた「旅」の分析をお互いに聞き合い，考えを深めることができる。（本時） |  | 〇 |  |
| ７ | 自分にとって「旅」とは何かを，これまでの考えを基にまとめる。 |  |  | 〇 |
| ８ | 書いた文章を読み合い，「旅」についてどのように自分が考えているのか，また，読書することの意義は何かを振り返る。  | 〇 |  |  |
| 三 | ９10 | 「平泉」において，芭蕉が何を見て感涙しているのかを読み取る。 |  | (〇) |  | 「平泉」から，芭蕉が感じていることを読み取り，自然や人間について考えを広げることができる。（ワークシート） |
| 11 | 「平泉」から，どんなことが読み取れたのかを交流する。 |  | (〇) |  | 「平泉」から，芭蕉が感じていることを読み取り，自然や人間について考えを広げたり深めたりすることができる。（ワークシート・観察） |
| 四 | 12 | 評価問題を行う。 |  | 〇 |  | 問題文を読み，自分の考えをもつ。（評価問題） |

８　本時の学習

1. 本時の目標

他者が考える「旅」と芭蕉，選択した本から考えた自分の「旅」についての考えをお互いに聞き合い，考えを深めることができる。

1. 学習の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習活動 | ○指導上の留意点●「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て | 評価規準（評価方法） |
| １　「おくのほそ道」を音読し，冒頭に書かれている芭蕉の思いを振り返る。本時の目標　他者が考える「旅」と芭蕉，選択した本から考えた「旅」についての記述をお互いに聞き合い，考えを深めることができる。２　交流して，「旅」への考えを深める。３　聞き取ったメモを参考にしながら，その意見を取り入れた考えを記述する。　４　本時の振り返りを行う。 | 〇ワークシートにより，他者の意見を聞いて，何を根拠に意見を述べているのかを聞き取るようにする。〇質疑応答を行いながら，考えに至った経緯などをしっかりと聞いて，自分の考えを広げられるようにする。●他者の意見の根拠を聞き取れるようにメモのワークシートに聞き取るポイントを示しておく。〇他者の意見を聞いて，自分との意見と比較しながら，自分はどのように考えたのかをワークシートに書き込む。●自分の意見を決めたうえで他者の意見を聞き，他者の意見と自分との比較を行い，どのようなところが同じか，違うかなどを明確にしながら意見を書き込む。〇振り返りシートを記入する。 | ・他者の意見を聞いて考えを広げたり深めたりして，自分の「旅」への考えを確実にしている。（ワークシートへの記述） |

９　評価問題

問　資料Ⅰ「平泉」の文章と資料Ⅱ「永久欠番」の歌詞を読んで次の問い①②に答えなさい。

①　資料Ⅰ「平泉」の文章と資料Ⅱ「永久欠番」の歌詞では，「人の存在の儚さ」について，それぞれの作者はどう捉えていると考えられますか。それらが読み取れる表現を資料１と資料２から引用したうえで，どう捉えているのか分かるように書きなさい。

②　①のような考えについて，あなたはどう考えますか。あなたの考えを支える根拠となる経験や見聞をふまえて具体的に書くこと。

【資料１】

|  |
| --- |
| 　三代の栄耀一睡のうちにして，大門の跡は一里こなたにあり。秀衡が跡は田野になりて，金鶏山のみ形を残す。まづ，高館に登れば，北上川南部より流るる大河なり。衣川は，和泉が城をめぐりて，高館の下にて大河に落ち入る。泰衡らが旧跡は，衣が関を隔てて南部口をさし固め，夷を防ぐと見えたり。さても義臣すぐつてこの城に籠もり，功名一時の草むらとなる。「国破れて山河あり，城春にして草青みたり」と笠打ち敷きて，時のうつるまで涙を落としはべりぬ。　夏草や兵どもが夢の跡　卯の花に兼房見ゆる白毛かな　曾良 |

【資料２】

|  |
| --- |
| 「永久欠番」歌詞 |